

ガザに光を！イスラエルの攻撃をやめさせよう！

12月27日、イスラエルがガザへの空爆を始めました。そのときの私の気持ちは「また始めたな。」にちかいものでした。感性が鈍っていたのです。しかし、空爆はやむことなく、4日には地上軍の侵攻となりました。ここにいたってようやく、私はメーリングリストで抗議の手紙・メールをよびかけました。そして、正月明けで、やっと体制のととのった不戦ネットとして、抗議の意志表示の運動をよびかけました。

1月10日、11日、17日と采で「ガザに光を！イスラエルの攻撃をやめさせよう」として行動をおこしました。マイクで通行中の市民に呼びかけたり、ビラをくばったりしました。「攻撃をとめ、封鎖解除をもとめる署名」をとり、緊急支援のカンパをあつめました。（これはNGO「パレスチナ子供のキャンペーン」へと手渡ししました。）キャンドル行動をおこない、DVDの上映をおこない、最後には采一帯でデモをおこないました。イスラエル大使館、日本外務省に抗議、要請文をおくりました。

短い準備期間のなかで、NGO関係者を中心に多くの団体、人が集まって協力してくれました。ここでお名前をあげることは当日参加してくれました。私が確認していない団体、個人もあるかと思いますが、私を確認していません。しかし、本当に多くの方が集まってくれました。ありがとうございました。パレスチナに心をよせている人たちが多くがよくわかりました。私たちは引き続き、3月3日から11日のウィル愛知での写真展、3月28日、女性会館での

映画「RAIBOW」の上映、岡真理さんの講演会を予定しています。

1995年、沖繩で少女レイプ事件があったときも、私は、「沖繩ではこういう事件が多いんだろうな」ぐらいの感覚でした。その後の事態の展開は、私の感性がいかに曇っていたことを反省させるものでした。今回、それを思い出し、「また始めたな」という感想は、私の感性の曇りから、不正義を許すという、とても恥ずかしいことだったと、14年ぶり、二度めの反省をしています。しかし、私にできることは実に小さいことにすぎません。ほとんど何もできないに近いものです。しかし、私たちの感性が鈍ってしまえば、声をあげることがやめてしまえば、パレスチナの不条理は黙殺されてしまいます。残念なこと、今でもじゅうぶん見殺し、黙殺に近いものがあります。

イスラエルはハマースのロケット弾攻撃をいいませんが、停戦が守られなかったのは、イスラエルによるガザの封鎖が解除されなかったことが第一の原因です。生かさず、殺さずという、封鎖の非人道性が非難されなければいけません。今回のイスラエルの攻撃で1300人以上の人がなくなり、400人以上（！）の子供、100人以上の女性が犠牲になりました。負傷者は5300人以上になる。イスラエルは国連施設、学校、避難所を攻撃し、白リン弾、フレッシュト弾などの非人道兵器を使用しました。じゅうぶんな戦争犯罪です。「停戦」後、米国などによる国際的なガザへの援助の話が出されています。（しかし、ハマースは民主的な手続きで選ばれた政権にもかかわらず交渉からはずされています。）しかし、こんどのイスラエルの攻撃に対しての事実調査はないのだろうか？ 戦争犯罪の処罰はないのか？ またしてもなんの制裁もないのだろうか？

こんなことが許されるはずがない、パレスチナの

ことを知ると、いつでもそんな感想を持つ。しかし、それが60年も続いている。それが逆に私たちの感性を曇らせているかも知れません。私はパレスチナのことに関心をしめしたとき、デイル・ヤシンの村の虐殺を知り、イスラエル建国の背景を知りました。そして私の記憶のなかには1982年、イスラエルのレバノン攻撃時、サブラ・シャティーラのキャンプでの難民虐殺があります。そして、インテイファダー。イスラエルは石でもって抵抗する子供たちを平気で射殺してきました。近年ではジェニンでの虐殺、ラファでの住宅破壊・虐殺、レバノン攻撃。コンクリート壁・・・許されるはずがないことが続いています。もつといえ、イスラエルは1967年の占領地から撤退するという国連安保理決議がある。イスラエルはこれも守らない。パレスチナ難民の帰還権を国連は認めている。イスラエルはこれも守らない。入植地建設。これも国連は認めていない。こんなことが許されるはずがない。でもすべてが許されている。アメリカがイスラエルを支持している。これが答へのすべてかも知れません。オバマ大統領はイスラエルの「自衛権を支持する」と言ったとされますが、アメリカの政策がすくなくともガザに関していえば、イスラエルによる封鎖が解除されなければなりません。

60年間続く「民族浄化」。巨大な「収容所」となったガザ。「国際社会」は巨大なイスラエルに対抗する抵抗組織を「テロ」組織とよび非難し、手作りロケット弾を「脅威」といっています。パレスチナの現状にたいして、私たちにできることは本当に小さいのかもしれない。私にとっては、日常的な援助団体NGOへの協力が精一杯であったりします。しかし、ただ一つ私が心にとめていたいと思っことは、なんとか、自分の日常のなかでも、パレ

スチナに関心をよせ続けたいということです。気持ちはパレスチナとつながっていたいということです。それは世界中の不条理から目をそらさないという意味でもあるはずです。「また始った」などという気持ち二度おこらないように。

八木

参考図書 「五月のガザ」 押原謙 講談社

「イスラエル擁護論批判」

「反ユダヤ主義の悪用と歴史の冒流」

ノーマン・G・ヒンケルスタイン

立木勝 訳 三交社

ガザ地区への攻撃即時停止および封鎖解除

をもとめる要請文

ニシム・ペンシトリット駐日イスラエル大使様

私たちはイスラエルが12月27日以降に開始したガザ地区に対する空爆、1月3日より開始した地上戦による侵攻をただちに停止すること強く要請します。私たちはガザ側からのロケット弾攻撃にも反対ですが、このロケット弾攻撃に対処するには、イスラエルの攻撃はあまりにも大きすぎるものです。報道によれば、なくなった人1000人、負傷した人5000人にのぼり、その数は増えつづけています。イスラエル軍は戦闘員ではなく、ガザ市民を無差別に殺傷しています。学校、病院、モスクなどを攻撃し、白りん弾などの非人道的な武器も使用しています。国連施設も攻撃しています。とても許される状況ではありません。2007年以來のイスラエルによるガザ封鎖が、被害をよりいっそう悲惨なものにしていま

す。

私たちはイスラエルにたいして、以下のことを強く要請します。

- 1、イスラエルは国連安保理の決議を尊重し、ただちに戦闘を中止すること。
- 2、イスラエルは非人道的なガザ封鎖をただちに解除すること
- 3、国連人権理事会の決議を尊重し、現地調査団を受け入れ、公正な調査のために努力すること

以上

2009年1月17日

||ガザに光を!!||

イスラエルの攻撃をやめさせよう!

1・17キャンドル集会参加者一同



音楽CD紹介

君を忘れない

— 悲しみのアフガン —

昨年8月26日、ペシャワール会のワーカー

伊藤和也さんが凶弾に倒れました。

伊藤さんを悼む、忘れないという気持ちで歌ができました。

「悲しみのアフガン」制作グループ

作詞 樋口則子

作曲 八木巖

ボーカル 樋口則子

パーカッション 金安弘

mix・master

H・Takeda

伊藤さんを送る会 名古屋

連絡先 peshawar@yahoo.ne.jp

郵送料 140円(1枚)

価格 300円

090-1297-9413 (八木)

